

「世界トップのカシミア素材で、日本の職人によるカシミアニットのカスタムオーダー」はうちなりに世界唯一と自負していました。

背広とはロンドン・サヴィルロウがなまった紳士服の起源そのもの。そのサヴィルロウの超有名店ハンツマンが日本初でUTOカシミアを指名してくれたことで、自称ではなく「やっと世界が受け入れてくれた」と、実感します。

50年も昔の旅行屋の頃、パリで島田順子さんから、「日本一は日本中から、世界一は世界中からお客様が来るのよ」と言われた言葉が蘇ります。



【令和5年度北上市技能功労者表彰】

北上市の産業発展に功労のあった技能者として、当社・UTO岩手工場の製造主任であり、岩手工場の立ち上げ当初のメンバーでもある館下愛美主任が、青年卓越技能功労者として表彰されました。今回の表彰は、「丁寧なものの作りの実績」と「チームづくり」を評価いただいたものと考えています。

【好評・UTO特製カシミア製品】

* 地中美術館のスーベニールの畦編みカシミアマフラ
* 京都の高級旅館・新門前（安藤忠雄監修）名前入りストール

【岩手日報】 県産カシミア製品世界へ

11月3日 一面トップ
北上に工場を構えるユーティーオー（東京）英国名門店で来秋販売 技術力・高い品質評価

【岩手朝日テレビ】

11月30日 スーパーチャンネルいわて
タカノのニュースでUTOが取り上げられました。英国ロンドンの高級紳士服店ハンツマンで日本のニットブランドとして初の取り扱いが決まった北上の工場での製造と東京青山のショールームの様子が放映。

【読売新聞・岩手版】 岩手ブランド世界へ

1月6日 英老舗が認めたニット
国内外から高い評価を受けるUTO（東京都）

レーガン大統領やココ・シャネルら著名人を顧客とした英ロンドンの老舗店にも認められた品質は、北上の職人が支えている。

【岩手めんこいテレビ】

1月11日 mitライブニュース
岩手で頑張る職人たちの作るカシミアが英国や豪州など海外に進出していることが、タカノのニュースで放送されました。

【河北新報】

1月16日
北上ニット 英老舗認めた顧客 王族や映画スター ハンツマンで岩手県北上で作る高級ニットが世界に進出

【OTEMOTO】 ウェブニュース

<https://o-temoto.com/hidemishinoda/uto/>
岩手県北上市で作る高級ニットが世界に進出

写真：吉田



【青山・表参道界限】 UTOはこんな街から発信しています
カシミアおやじの

国宝 迎賓館・赤坂離宮

東京港区一 の観光名所

赤坂にある迎賓館は今まで何度も前を通り過ぎることがありました。私にとってここはご大層で、お国の賓客が泊まつたり会議をする処で、皇居の二重橋を眺める感覚でいつも素通りにしていました。

先月たまたま通りがかった中の様子を眺めていると、重厚な鉄の扉から出てくる一般の人がいるので、守衛さんに「はいれるんですか？」と聞くと、「どつぞどつぞ、向こうの西門から入ってください」ととても愛想が良いのです。

内閣府という受付で本館と庭園を見学出来る参観料金1500円也をスイカで払って中へ。まずは表からは見られない裏庭へ。

ネオバロック様式と言われる宮殿の表からの様子は見慣れた景色ですが裏からは初めて見ました。

「裏庭には噴水があつたんだ！」と新鮮な発見です。それにしても手入れが見事で手間もお金もかかっている！と変な処に感心してしまいます。建築物と言えは木造の江戸時代、その侍の世が終わり西洋に目覚めたばかりの明治政府がこれを作ったと思うと、「頑張ったんだなあ」と

一種の感動的な感慨が沸きます。

昔旅行屋でしたのでヨーロッパのベルサイユ宮殿やシェンブルン宮殿など豪華で巨大な宮殿をたくさん見ていたので、この日本の迎賓館はコンパクトにまとまった宮殿という印象です。

ベルサイユ宮殿に初めて入った時、内装の派手さと豪華さに驚き「凄い！」を通り越して呆れてしまった記憶があります。隙間なく彫刻されたキンキラキンの柱や壁、鏡、高い天井。パーティーや会議をやったと聞かされても、「こんなところでパーティーは出来ても集中して会議が出来るもんだ。ましてこんなところで眠るなんてどんな神経しているんだろ」と、詫びさびの中で生活している日本人としての感覚や文化の違いをまざまざと知らされた記憶があります。

この赤坂離宮は豪華で派手ではある私がかつて見たヨーロッパの宮殿に比べるとシックで、上品だと思います。建物すべてに隅々まで本当に神経を配り日本の西洋式宮殿でした。



メンズ:カシミア100%
7G クルーネック セーター
1217-1399 ￥81,400(税込)

通常の12ゲージのUTOベーシックより厚みのある、ローゲージ(7ゲージ)のセーターです。
ローゲージのふっくらして柔らかなセーターは「包容力のある温かさ」があります。



レディース カシミア100%
片畦フーテッドカーディガン
1147-2003 ￥121,000(税込)

最高級のカシミアを贅沢に使用したカジュアルながら高級感のある畦編みカーディガン。
ふっくらとしたボリュームのある質感でカシミアならではの肌触りをさらに実感頂けます。



カシミア100% 小物
天使のリバーシブルネックウォーマー
1312-3283 ￥27,500(税込)

ふわっ、とろっ。極限まで甘めに編んだ、肌にとっても優しくうっとりするようなネックウォーマー。
贅沢な2枚仕立てで、その日の気分に合わせて色合いを調整できるリバーシブルです。



カシミヤとニットの話 * (七十七)

フランスからのメール

パリのマレ地区にある本屋さんから

海外へ広がった東北支援

フランス・パリの流行発信エリアとして名高いマレ地区の有名ギャラリー兼書店であるイヴォン・ランバート (Yvon Lambert: <https://www.yvon-lambert.com/>) にて、『UTO カシミヤ天使の葉』の取り扱いが始まりました。

UTO の東北復興への想い

カシミヤ天使の葉は本業ではありませんが、当社が山梨から岩手に移転した2011年に東日本大震災が起これり、当時北上市には沿岸地域から避難されている方々が大量に集まっていた。新参者の企業市民として何かお役に立ちたいと始めたのが、『寄付』でした。

東北岩手の寒い冬を過ごすための灯油代の一部にでもなればこの思いに、少額だからこそ10年も20年も継続することが大事だと考えたのです。



イヴォン・ランバートについて

パリのアートシーンを代表するギャラリストであったイヴォン・ランバート (Yvon Lambert) は2017年にギャラリーを閉鎖後、観光地・流行発信地としても名高いパリのマレ地区に、ギャラリー、書店、出版社を一体化させたスペースをオープン。新進鋭の才能や確立されたアーティストなどの作品を扱い、世界に向けて文化を発信しています。

先月の1月、50

枚からスタートして半月も経たずに100枚の追加のオーダーが入り、今度は葉を作る方がおかわらわなんですがこれを機にフランス以外にも広がる様に知恵を絞りたいと思っています。

東日本大震災から13年、思いもかけず海を渡って海外でも支援の輪が広がることになりました。今後も東北復興支援を風化させず、末長く継続していけるよう頑張ります。

本業のUTOのオーダーメイドが可能なカシミヤニットも、英国ロンドンの名店ハンツマンや豪州で屈指の歴史を誇るJ・Hカトラ等、海外高級紳士服店での取り扱いが決定し、アメリカやカナダとの商談も進んできました。これを機に日本の「ものづくり」を世界に発信していくことに力を注いでまいります。

京都の一乗寺に恵文社さんという本屋さんがあり、この葉の追加注文を毎月頂く程多大な協力を頂いている書店

幼馴染の
雲仙普賢岳の
切手



今年は74才になるので、そろそろ断捨離をしなればと、物や書類の片づけを始めました。

ぬものが出てくると手が止まり遅々として進みません。中学の頃に流行った切手収集。少ない小遣いのなかで集めた品粗なコレクションが出てきて、捨てるにはもったいないのでどこかのNPOにでも寄付しようと思っている中に、「平成新山・長崎県」という雲仙普賢岳の切手が出てきました。

懐かしいこの切手はこの写真を撮った本人からもらったものです。西川清人と言う写真家で田舎の九州島原の中学の同級生です。

西川君は地域に一軒だけある写真店の二代目です。町の行事や冠婚葬祭の時には西川写真店の親父さんが来てくれて集合写真を撮ってもらうのがいつものことでした。もちろん中学の卒業アルバムの写真も西川君の親父さんが撮ってくれました。

1991年6月、30年以上も前のことですが、毎日仰ぎ見た故郷の山が噴火したのです。写真家としての西川君は、地元ならではの絶好のチャンスと写真家魂を揺り動かされ「自分が撮らなきゃ」と、因縁めいた思いで撮った写真が注目され、写真展が有楽町のフジフィルム・フォトサロンで開催されるのを新聞で知り駆けつけました。盛況でかなりの人出でした。

溶鉱炉の中のコークスのように赤く燃える夜の溶岩ドーム。真っ黒に山を被う噴煙など、地の利を得た西川君ならではの迫力のある見事な写真です。会場で一応に聞こえてくる感嘆の声も噴火の生々しさに対するものでした。でも、私が最も引かれたのは、雨上がりの澄んだ空の下青々とした田圃を一面の島原鉄道が走り、その後ろにすっかり姿を変えた普賢岳が聳えている写真でした。普賢岳にはうっすらと緑が芽生えています。切手にある情景とほぼ同じで涙が出るほど嬉しいふるとの雲仙普賢岳の写真でした。

写真を見終わって受付で名乗ると西川君によく似た若者がお辞儀しながら、一通の葉書を渡してくれました。それは西川君が私宛に出してくれた写真展への案内でした。随分昔の住所で行先不明で返送されたもので、東京に行くので逢おうという添え書きがありました。東京の写真展の前にこの写真を遺して彼は逝ってしまいました。心筋梗塞だそうです。五十の誕生日を前にあまりにも若い死です。この切手は処分出来ません。合掌

想いでのホテルを旅する(七十七)

元 旅行屋のお勧め 横浜・神奈川

ホテル ニューグランド

元々旅行が好きで最初の就職先が海外旅行の会社でした。当然宿には興味がありますが特にクラシックホテルが好きです。

宿は泊まるのが本来の目的ですがクラシックホテルに足を踏み入れるとそのホテルの歴史の時空を旅している気分になり豪華なホテルより惹かれます。

クラシックホテルに明快な定義づけはないのですが、日本では戦前にオープンしてしまにその面影を残し続けて営業している泊まれるホテルのことでしょう。明治23年に開業した伝説ある帝国ホテルは建物3代4代になっているのでクラシックホテルと呼んではいけません。ホテルの営業が終わって建物だけは文化財として残っている軽井沢の三笠ホテルや北海道の豊平館もありますがクラシックホテルとは呼んでいません。

念願が叶ってついに横浜のホテル ニューグランドに泊まってきました。

幕末期、日米修好通商条約で横浜が開港し外国船が多く来航するようになり幕府が定めた外国人居留地に外国人の為に建てられたグランドホテルが出来ました。外国人経営で横浜を代表するホテルで繁盛していたのですが、関東大震災で崩壊してしまいました。荒廃した横浜を立て直すべく、新たに横浜を代表するグランドホテルを建てることになったのがこのホテル ニューグランドです。

ニューと言っても戦前の1927年に建てられたホテルですからとてもシックな建物で、窓の赤いテントが山下公園の緑とよく調和しています。

このホテルで一番好きな処は入り口からすぐに二階へと昇る青い絨毯が敷かれた階段と二階のラウンジです。



シックなカラーで統一された落ち着いた雰囲気、高い天井、ゆったりとしたテーブルと椅子、窓の重厚なカーテン。窓からイチョウ並木と横浜の海が見えます。いつも人影が疎らで、みなさん一応に小声で話しています。

山下公園の端に氷川丸が係留されていますが、同時代の1930年北米航路シアトル線に就航した氷川丸の一等船内の内装とこのニューグランドの雰囲気はよく似ていると思います。当時も今もセレクトな空間だと思っています。